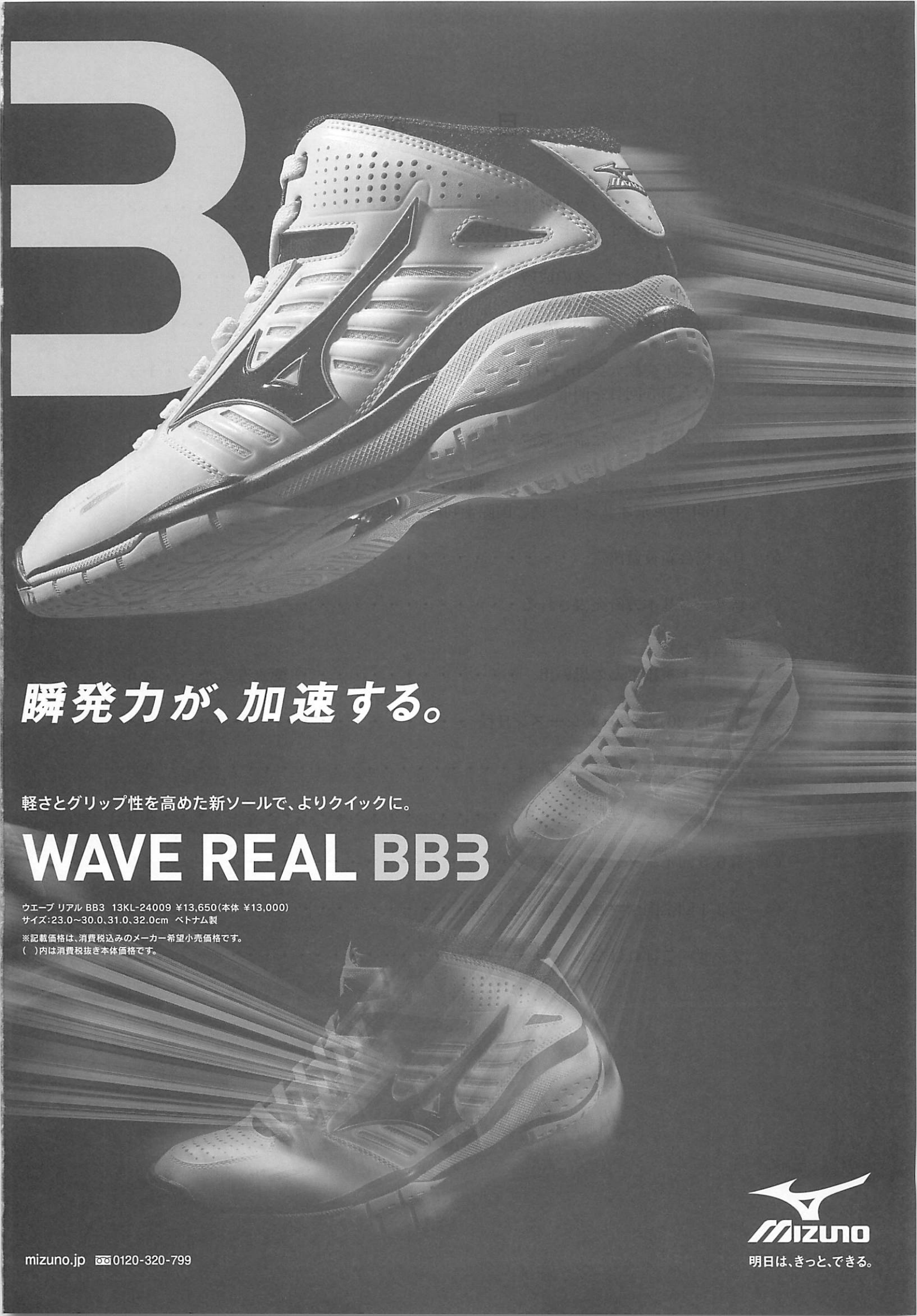
抜粋版

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No:55*

2012年8月

NPO法人 日本バスケットボール振興会


瞬発力が、加速する。
軽さとグリップ性を高めた新ソールで、よりクイックに。
WAVE REAL BB3
ウエーブ リアル BB3 13KL-24009 ¥13,650(本体 ¥13,000)
サイズ:23.0~30.0、31.0、32.0cm ベトナム製
※記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。
( )内は消費税抜き本体価格です。
mizuno.jp 0120-320-799
MIZUNO
明日は、きっと、できる。

目　　次

○ ロンドンオリンピック世界最終予選・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　女子日本代表オリンピック出場成らず

○ ロンドンオリンピックの成績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

○ 新生男子日本代表始動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１

○ 全国シニア交歓大会 in YOYOGI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　今年も第５回目を開催

○ 中学生クリニックに講師派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

○ 日本人初のオリンピック決勝戦審判・・・・・・・・・・・ 歴史部 ・・・２８
　1964 年東京オリンピック、国際審判員　松尾武司氏

○ 日本協会新役員決定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

○ 新リーグ基本方針発表される・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

○ 会員だより
　故冨士秀雄さんの思い出 ・・・・・・・・・・・・・・ 徳永寿美 ・・・３６

○ ＪＢＬ 2012～2013 シーズン日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

○ ＷＪＢＬは９月２８日開幕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

○ ｂｊリーグレギュラーシーズン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８

○ 第６５回インターハイ成績 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９

○ 第３１回全国ママさん交歓大会結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１

○ プラザ　こぼればなし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３

ロンドンオリンピック世界最終予選

女子日本代表オリンピック出場成らず

［編集部］

６月２５日からトルコのアンカラ市で開催された、ロンドンオリンピック世界最終予選において、女子日本代表は身長差という苦しい戦いを強いられ、最後まで奮闘したもののオリンピック出場権獲得は成らなかった。これは身長差に劣る日本としては基本的に考え直さなければならない今後の大きな課題となった。

女子日本代表チーム

主なスタッフ

役　職	氏　名	所　　属
団　長	鈴木　秀太	日本協会
チームリーダー	高橋　雅弘	日本協会
ヘッドコーチ	内海　知秀	日本協会
コーチ	丁　　海鎰	トヨタ自動車アンテロープス
コーチ	小嶋　裕二三	デンソーアイリス

選　手　　年齢は６月現在

No	氏　名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所　属
4	大庭　久美子	ＳＧ	169	59	24	デンソーアイリス
5	高田　真希	ＰＦ	184	74	22	デンソーアイリス
6	間宮　佑圭	C	185	74	22	ＪＸサンフラワーズ
7	矢野　良子	ＳＦ	178	73	33	トヨタ自動車アンテロープス
8	田中　利佳	ＳＧ	174	65	29	ＪＸサンフラワーズ
9	久手堅　笑美	ＰＧ	165	63	27	トヨタ自動車アンテロープス
10	藤原　有沙	ＳＦ	175	67	24	デンソーアイリス
11	木林　稚栄	ＰＦ	184	70	22	ＪＸサンフラワーズ
12	吉田　亜沙美	ＰＧ	165	61	24	ＪＸサンフラワーズ
13	大神　雄子	ＳＧ	170	62	29	ＪＸサンフラワーズ
14	篠原　恵	C	184	74	20	富士通レッドウェーブ
15	山田　久美子	C	192	116	33	ＪＸサンフラワーズ
平　均			177	71.5	26	

選手は当初２０名だった候補選手のうち怪我などもあって１５名に絞られ、最終的に現地へ入ってから上記１２名のエントリーとなった。期待された 192ｃｍのセンター渡嘉敷選手が、足の怪我の回復が遅れて今回不参加となったこともあって、平均身長は 177ｃｍ

となり小型軍団として戦うことになった。

前号でお伝えしたとおり、オリンピック出場枠は全部で１２チーム、各大陸の優勝チーム（５チーム）と開催国、世界選手権大会優勝国の７チーム以外の５チームは世界最終予選によって決定される。

世界最終予選に出場できるのは１２チームで、最初に３チームづつ４ブロックに分かれて総当りリーグ戦を行い、各ブロックの上位２チーム合計８チームが次のトーナメント戦に進出する。トーナメント１回戦で勝利した４チームにはその時点でオリンピック出場権が与えられ、残り１枠を目指してトーナメントの敗者が戦う。

日本はＡブロック初戦でトルコに敗れたが、次のプエルトリコ戦に勝利してトーナメント戦に進出、そこでＢグループ１位のチェコと対戦して敗れ、敗者復活戦に臨んだ。敗者復活戦ではまず韓国と対戦し一方的な勝利を収めたが、敗者復活決勝のカナダとの対戦でまたもや相手の高身長に苦しめられ結局オリンピック出場権獲得は成らなかった。以下日本代表の試合経過について報告する。

トルコ戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	8	15	16	10	49	●
トルコ	16	20	16	13	65	○

日本は、#5 高田、#6 間宮、#10 藤原、#12 吉田、#13 大神のスタートメンバー、立ち上がりトルコは、二人の 190ｃｍ台プレーヤーがインサイド攻撃し得点を重ねる。日本はトルコの激しいディフェンスに対して攻撃がうまくいかず、８対１６で第１ピリオドを終わる。第２ピリオドに入り日本の攻撃がリズムに乗って開始３分に１４対１９と５点差まで詰め寄ったが、タイムアウト後のトルコは３Ｐシュートやドライブインなどで再び日本を突き放し、前半を終わって日本は２３対３６という１３点のビハインドを負った。

第３ピリオド日本は開始早々から高田、矢野、間宮らが果敢に攻めて３０対３６と６点差まで追い上げたが、その後はまたトルコのペースとなり３９対５２と再度前半終了時の差がついた。

第４ピリオド追い上げたい日本だったが、３Ｐシュートを含めたトルコが勢いづき点差は開く一方となった。このピリオド日本はシュートを４本しか決められず、総得点で４９点というみじめな結果となってしまった。トルコは日本に勝った時点でＡグループ１位が決まり次のトーナメント戦ではＢグループ２位との対戦が決まった。

この試合のデータ抜粋

チーム	平均身長ｃｍ	2P シュート	確率%	3P シュート	確率%	フリースロー	確率%	リバウンド数	ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ数
日　本	177	14／30	46.7	5／23	21.7	6／9	66.7	29	14
トルコ	182	17／43	39.5	6／16	37.5	13／16	81.2	36	10

この試合をデータ的に分析してみると、２Ｐシュートではトルコが１７本成功して確率40%、日本は１４本成功して確率 47%とほぼ互角だが、３Ｐシュートではトルコの確率が38%なのに日本は 22%の確率でトルコのディフェンスに抑えられた形、リバウンドではト

ルコ３６本に対して日本は２９本しか取れず、ディフェンスを含めて身長差がそのまま影響したと云える。

プエルトリコ戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	19	11	22	27	79	○
プエルトリコ	11	17	15	27	70	●

後がない日本はトルコ戦と同じスタートメンバー、立ち上がりから高田、間宮らのインサイド攻撃が冴えて５分に１２対６とリードする。プエルトリコも３Ｐシュートなどで反撃するが日本も田中の３Ｐシュートなどで得点を重ね、１９対１１の８点差で第１ピリオドを終わる。

第２ピリオドに入ると、日本の得点が止まっている間にプエルトリコが追い上げて開始４分に２３対２０となる。その後は一進一退の攻防が続き前半を終えて３０対２８と日本が２点リード。

第３ピリオド立ち上がり、プエルトリコの連続得点で３０対３２と逆転されるが、その後日本のシュートが決まりだし、矢野の３Ｐシュートや大神のジャンプシュートなどで一気にリードを広げ５２対４３の９点差でこのピリオドを終了。大神はこのピリオドだけで１１得点の大活躍。

第４ピリオド序盤から間宮の活躍で更に点差を広げたが、プエルトリコも簡単には離されまいと再び追い上げる。しかし日本は矢野の３Ｐシュート３本が決定的となって一時は１７点差とリードを広げる。その後プエルトリコ必死の反撃で点差は詰まったが、日本も落ち着いて試合を進め、結局７９対７０でプエルトリコを下し、Ａグループ２位で次のトーナメント戦出場を決めた。

この試合のデータ抜粋

チーム	平均身長 cm	2P シュート	確率%	3P シュート	確率%	フリースロー	確率%	リバウンド数	ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ数
日　本	177	22／41	53.7	5／21	23.8	20／28	71.4	47	13
ﾌﾟｴﾙﾄﾘｺ	178	19／49	38.8	6／19	31.6	14／17	82.3	36	9

この試合を分析すると２Ｐシュートでは日本 54%の確率に対して相手は 39%、３Ｐシュートの確率では日本の 24%に対してプエルトリコ 32%と相手が上回ったが、リバウンドで相手３６本に対して日本は４７本と頑張った結果が勝利に結びついている。この試合で間宮は２９得点を挙げ、大神１７得点、矢野１３得点と攻撃面でもいい結果となった。

チェコ戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	4	14	13	16	47	●
チェコ	17	12	14	10	53	○

この試合に勝てばオリンピック出場権が与えられる大事なゲームだったが、日本は立ち

上がりシュートが決まらず、第１ピリオド４得点のみと云う最悪の結果となり、このつまづきがビハインドとなり最後まで尾を引いて敗れた。

第１ピリオド日本のドライブインに対してチェコは高身長を生かして殆どシュートブロックする立ち上がりとなり、開始３分で１対１１とあっという間に１０点の差がついた。タイムアウト後の日本は拙攻が続いて残り４分まで無得点、結局このピリオドで４得点しか挙げられなかった。

第２ピリオド日本は早い展開から間宮のミドルシュートや田中の３Ｐシュートなどで追い上げる。対するチェコも３Ｐシュートを中心に譲らなかったが、終盤に藤原が２本の３Ｐシュートを決めて１８対２９と１１点のビハインドで前半を終わる。

第３ピリオド序盤なかなか調子が上がらなかった日本だが、残り５分からリズムが良くなり木林、大神、間宮らが相手のファウルを誘ってフリースローを決め、残り２分４２秒で３０対３７の７点差まで追い上げるが、チェコも３Ｐシュートなどで凌ぎ３１対４３と再び１０点以上の差がつく。

第４ピリオド立ち上がり日本は間宮を中心に猛攻し、開始１分で８点差、その後田中の連続３Ｐシュートなどで開始４分には４３対４６と３点差まで詰め寄った。しかしチェコも高さを生かしたリバウンドと３Ｐシュートなどで対抗し、日本の逆転には至らず４７対５３という低得点で敗れた。

さきにも触れたが第１ピリオドの４得点のみは悔やまれる。このピリオドの得点が今少し伸びて二桁であったならば、後半の追い上げが成功して逆転も可能だったであろう。

この試合のデータ抜粋

チーム	平均身長ｃｍ	2P シュート	確率%	3P シュート	確率%	フリースロー	確率%	リバウンド数	ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ数
日　本	177	11／40	27.5	5／16	31.2	10／15	66.7	23	10
チェコ	186	15／40	37.5	5／14	35.7	8／12	66.7	42	19

この試合のデータをみると何と云ってもリバウンドの差が大きい。日本の２３本に対してチェコは４２本と倍近いし、２Ｐシュートでは日本の成功数１１本、確率 28%に対してチェコは成功数１５本、確率 38%となっていて、リバウンドと２Ｐシュートの差がそのまま勝敗に表れている。３Ｐシュートやフリースローはほぼ互角で、ターンオーバーはカナダ１９に対して日本は１０だから善戦したと云っても良いが、総得点４７点では勝ち目はない。

韓国戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	29	18	18	14	79	○
韓　国	4	16	13	18	51	●

オリンピック出場権の残り１チームを目指してトーナメントで敗れた４チームによる敗者復活戦、日本はまず韓国と対戦、大方の予想を覆し一方的な試合展開で快勝した。

第１ピリオド日本は激しいディフェンスからボールを奪い高田や間宮が次々に得点し、更に吉田の３Ｐシュートや田中の速攻などで加点、開始５分で１４対２とリードを奪う。

タイムアウト後韓国は何とか立て直そうとするが、日本の攻撃リズムは好調で全員が得点し２９対４と大量リードで終わる。

第２ピリオド韓国は得意の３Ｐシュートで点差を詰めるが、日本のミドルシュートを中心とした攻撃は止まらず、４７対２０の点差で前半を終了する。大神は前半だけで１８得点を挙げる大活躍だった。

第３ピリオド日本は速攻や田中の３Ｐシュート、大神の連続得点などで開始４分に５５対２３と大量リードし、主力メンバーを休ませる余裕をみせる。替わったメンバーも生き生きとしたプレーで得点を重ね６５対３３でこのピリオドを終わる。

第４ピリオド韓国は必至のオフェンスで得点するが、大量リードのある日本はあわてずに藤原や篠原が得点し、結局７９対５１の２８点差をもって韓国を制した。日本が国際試合で韓国を下したのは７年ぶり。

この試合のデータ抜粋

チーム	平均身長 cm	2P シュート	確率%	3P シュート	確率%	フリースロー	確率%	リバウンド数	ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ数
日　本	177	29／61	47.5	4／9	44.4	9／10	90.0	31	6
韓　国	180	16／41	39.0	4／14	28.6	7／12	58.3	32	23

この試合のデータをみると日本の快勝ぶりがうかがえる。２Ｐシュートは６１本中２９本決まって確率 48%、３Ｐシュートは４本しか決まらなかったがフリースローの確率 90%で、全てのシュート確率で韓国を上回った。リバウンドは互角だがターンオーバーでは韓国の２３に対して日本は６といずれも優れた成績。

カナダ戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	11	20	11	21	63	●
カナダ	21	16	15	19	71	○

敗者復活戦決勝、この試合に勝ったチームに残り一つのオリンピック出場権が与えられる大事なゲームだったが、日本はまたもや身長差による開始直後のオフェンスに苦しんだ。

第１ピリオド先行したのはカナダ、高さを利用したインサイドプレーや３Ｐシュートで開始３分に１１対０とリードする。タイムアウト後の日本は大神のジャンプシュートや吉田のドライブインで対抗するが、カナダの高さを武器にした攻撃と３Ｐシュートによって得点され、１１対２１の１０点差で終わる。この立ち上がりの点差がチェコ戦同様最後まで響いて逆転には至らなかった。

第２ピリオド立ち上がりから大神のミドルシュートなどで追い上げ早々に１５対２１の６点差に迫ると、カナダも連続３Ｐシュートなどで盛り返す。その後日本も矢野の３Ｐシュートや高田のドライブインなどで残り３分には３点差まで詰めよったが、またもやカナダに３Ｐを決められ３１対３７の６点差で前半を終える。

第３ピリオド開始早々からカナダの３Ｐシュートが決まり開始２分には３３対４３と１０点差になってしまう。その後日本は大神の攻撃や間宮の頑張りで得点するが、カナダもインサイド中心の攻撃で点の取り合いが続き４２対５２の１０点差でこのピリオドを終わ

る。

第４ピリオド立ち上がり田中の連続３Ｐで４７対５２と５点差まで詰め寄る。タイムアウト後のカナダは３Ｐシュートなどで対抗しそれ以上得点差が縮まらない。日本は残り時間が３分を切ってからファウルゲームを仕掛けるが、カナダにフリースローを決められてどうしても追いつくことができず、結局８点差で涙をのんだ。

この試合のデータ抜粋

チーム	平均身長ｃｍ	2P シュート	確率%	3P シュート	確率%	フリースロー	確率%	リバウンド数	ﾀｰﾝｵｰﾊﾞｰ数
日　本	177	22／46	47.8	3／14	21.4	10／11	90.9	19	8
カナダ	185	17／38	44.7	9／19	47.4	10／18	55.6	39	14

この試合で大きかったのはリバウンドだ。カナダ３９に対して日本は１９と圧倒され、シュートが落ちた後の相当部分をカナダに支配され体力の消耗に繋がった。２Ｐシュートでは確率 48%とカナダの 45%を上回ったが、３Ｐシュートではカナダの 47%の確率に対して日本は 21%に抑えられた。フリースローの確率日本 91%カナダ 56%、ターンオーバー日本８に対してカナダ１４と数字の上では十分対抗しているのに、勝利には結び付かず悲願のオリンピック出場は成らなかった。

大会を振り返って

目指していた８年ぶりのオリンピック出場の夢は残念ながら潰えた。敗れた試合で一番顕著だったことはやはり身長差だったと云えよう。平均身長で５～９ｃｍ、センター陣では１５ｃｍ以上の差に対抗できなかった。日本が武器とする早いバスケットはそれなりに成功したが、３Ｐシュートはどこのチームにも要所で簡単に決められ、逆に日本の３Ｐシュートを簡単には打たせまいとする作戦にはまってしまった面もある。日本のひとつの要でもある３Ｐシュートが抑えられたことは、これまでのオフェンス内容を改善しない限り得点の伸びには至らない。

また女子の試合とは云っても、総得点が７０点以上にならないと勝利出来ないことも裏付けられた。日本が勝ったプエルトリコ戦と韓国戦でそのことが証明されているし、トルコ戦とチェコ戦ではゲーム開始早々の少得点が最後まで影響して総得点が４０点台にとどまった。国際試合において４０点台で勝利することは難しいことだろう。

リバウンドで対抗できたのは勝利したプエルトリコ戦と韓国戦だけで、他の対戦では相手に圧倒され、ディフェンス時でも成功しなかったシュートボールを奪って速攻につなげる攻撃は少なかった。この身長差の対策については、日本バスケット界としていかに克服するのか今後の大きな課題となった。

今回の大会で選手は身長差にも拘わらず果敢にプレーして、最後までよく頑張ったと思う。

日本バスケット界が今回の内容を反省材料にして、次の対策を早く検討し実行に移すことを期待したい。

ロンドン・オリンピックの成績

［編集部］

バスケットボールにおける日本代表は男女ともロンドン・オリンピックに出場できなかったが、オリンピックの成績について下記する。

結果的に男子はアメリカ、女子もアメリカと、ともにアメリカの強さを発揮して優勝したが、男子アメリカは決勝でスペインとの大接戦を制した。

男子の部

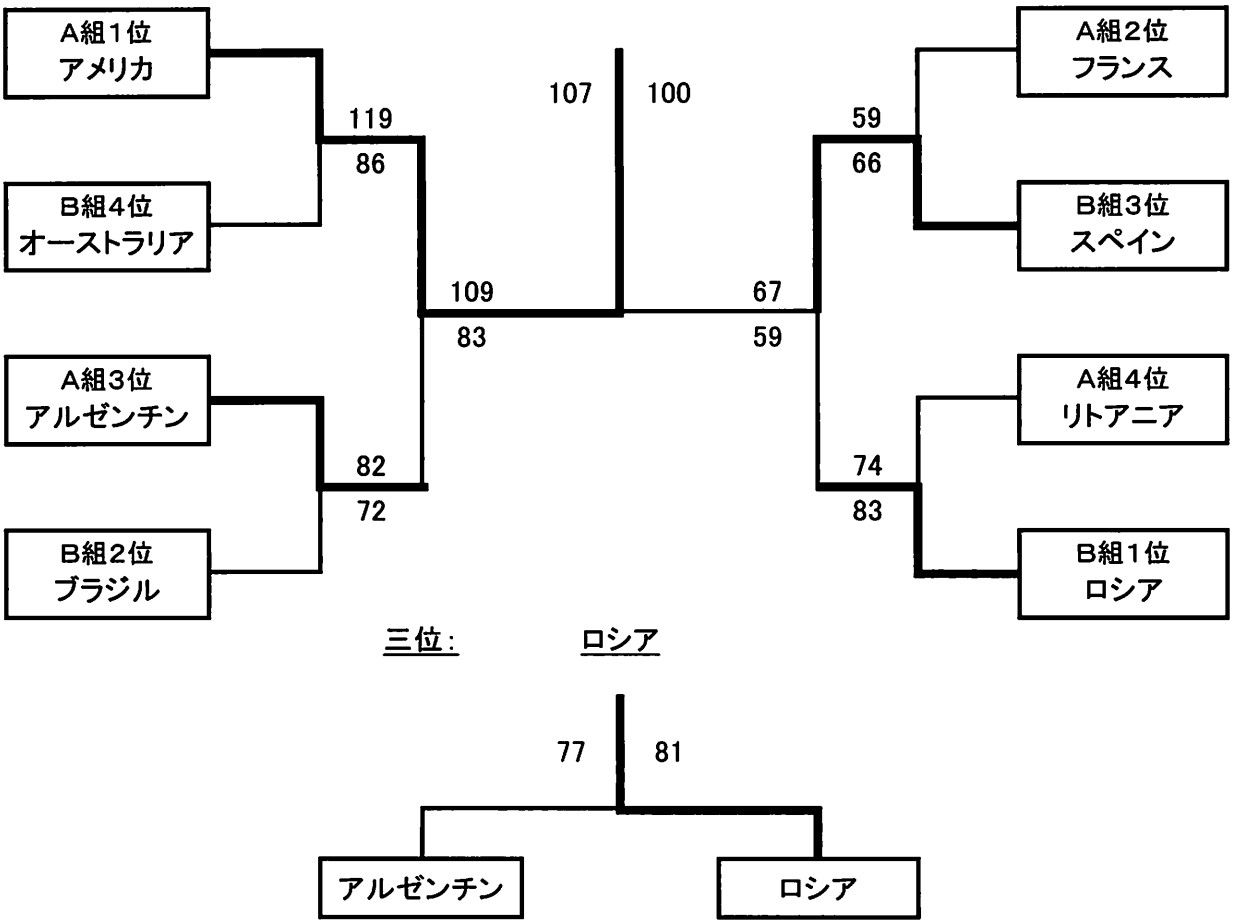
男子グループリーグ

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
A組	アメリカ	フランス	アルゼンチン	リトアニア	ナイジェリア	チュニジア
B組	ロシア	ブラジル	スペイン	オーストラリア	イギリス	中国

男子ファイナルトーナメント

優勝：　アメリカ

準優勝：　スペイン



三位：　ロシア

女子の部

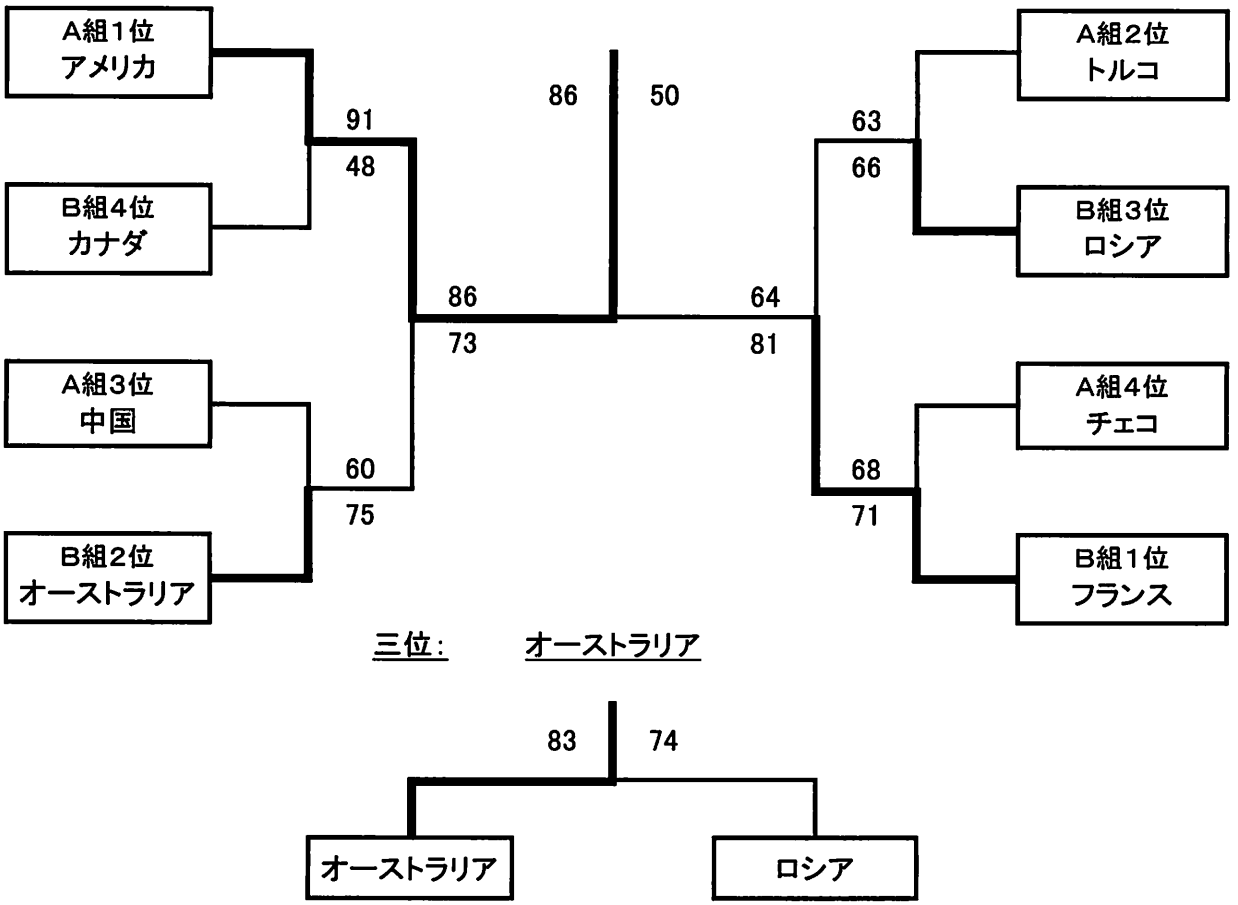
女子グループリーグ

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
A組	アメリカ	トルコ	中国	チェコ	クロアチア	アンゴラ
B組	フランス	オーストラリア	ロシア	カナダ	ブラジル	イギリス

女子ファイナルトーナメント

優勝: アメリカ

準優勝: フランス



三位: オーストラリア

ちなみにアジア代表の中国は、男子がＢ組６チームの最下位、女子がＡ組３位で８強止まりであり、世界的に見るとアジアのレベルはやや低下している感がある。

また、チームとしては出場できなかった日本だが、ＦＩＢＡの指名により女子３位決定戦に、橋本信雄氏がジュエリー、須黒祥子氏が審判員としてそれぞれ参加している。

これは日本の審判技術が国際的にも高く評価された故であり、バスケット界を代表して現地での活躍が光った。

新生男子日本代表始動

［編集部］

日本協会は男子日本代表チームのヘッドコーチにアイシンの鈴木貴美一氏を任命し、鈴木氏を中心に新たな男子日本代表選手を選出して、ＪＢＬとｂｊリーグ終了をもって強化合宿に入り、７月１日（日）、チャイニーズタイペイチームを招聘して国際強化試合に臨んだ。

新生男子日本代表チーム

主なスタッフ

役　職	氏　名	所　　属
ヘッドコーチ	鈴木　貴美一	アイシンシーホース
アシスタントコーチ	納谷　幸二	岡山商科大学付属高校
Ｓ＆Ｃコーチ	小山　孟志	日本協会

選　手

No	氏　名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所　属　（出身校）
4	古川　孝敏	ＳＧ	190	90	24	アイシンシーホース（東海大学）
5	ショーン・ヒンクリー	ＰＦ	200	95	21	リンク栃木ブレックス（アメリカ・ウエストトランス高校）
6	比江島　慎	Ｇ	190	87	21	青山学院大学４年（洛南高校）
7	石崎　　巧	ＰＧ	188	85	27	ＢＶChemnits99（東海大学）
8	太田　敦也	Ｃ	206	110	28	浜松・東三河フェニックス（日本大学）
9	栗原　貴宏	ＳＦ	192	82	24	東芝ブレイブサンダース（日本大学）
10	竹内　浩輔	ＰＦ	206	98	27	トヨタ自動車アルバルク（慶応義塾大学）
11	櫻井　良太	ＰＧ	194	85	29	レバンガ北海道（愛知学泉大学）
12	永吉　佑也	Ｃ	199	110	20	青山学院大学３年（延岡学園高校）
13	渡邉　裕規	ＰＧ	180	74	24	パナソニックトライアンズ（青山学院大学）
14	金丸　晃輔	ＳＧ	193	78	23	パナソニックトライアンズ（明治大学）
15	竹内　譲次	Ｆ	207	98	27	日立サンロッカーズ（東海大学）
16	田中　大貴	ＳＧ	191	88	20	東海大学３年（長崎西高校）
17	張本　天傑	Ｆ	198	88	20	青山学院大学３年（中部大学第一高校）
18	橋本　晃佑	Ｆ	203	76	19	東海大学１年（宇都宮工業高校）
19	渡邉　雄太	Ｇ	200	73	17	尽誠学園高校３年（高松市牟礼中学校）
20	角野　亮伍	ＳＦ	188	75	16	藤枝明誠高校１年（厚木中学校）
平　　均			196	88	23	

年齢は６月現在

この男子日本代表チームは大田区総合体育館開館記念事業として、チャイニーズ・タイペイ代表チームを招聘して７月１日に新装なった大田区体育館で対戦して快勝し、幸先よい

スタートとなった。

対戦結果

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	18	21	26	20	85	○
ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ	16	20	21	20	77	●

立ち上がり日本は#7 石崎、#10 竹内、#14 金丸、#15 竹内、#17 張本のスタートメンバーでタイペイに３Ｐシュートで先制されたが、すぐに#7 石崎を始めに得点を入れ返し、開始４分には８対３とリード、その後は日本が先行しタイペイが追いかける形でゲームが進み前半３９対３６と日本リードで折り返す。

後半に入っても竹内兄弟の得点などでリードを伸ばしたが、第４ピリオド日本の得点が伸びない開始４分に７１対７１の同点に追いつかれる。しかし日本は#4 古川の３Ｐシュートなどで抜け出し、最後はタイペイのファウルゲームとなったがフリースローをしっかりと決めて８５対７７の８点差で快勝した。

昨年からのルール変更で３Ｐラインが５０ｃｍ外側へ広がったが、男子の場合全く関係ないようで、少しでもディフェンスが甘くなると３Ｐシュートが面白いように決まる。３Ｐラインの少し外側の７メートル付近ではどうしてもディフェンスが甘くなりがちだが、これだけ３Ｐシュートの能力が上がってくるとアウトサイドディフェンスを相当意識しないと簡単に３Ｐシュートを打たれてしまうことになり、これからの課題の一つになりそうだ。

この試合において３Ｐシュートは、日本が２２本中７本成功、タイペイは２４本打って１０本成功している。

ＦＩＢＡ　ＡＳＩＡ　カップ　２０１２を日本で開催

２０１４年に開催される世界選手権大会の最初の予選となる上記大会が、９月１４日から２２日まで東京大田区総合体育館で開催されることが決まった。

大会は参加１０チームを５チームづつＡＢ二つのブロックに分けて総当たりリーグ戦を行い、各グループの上位４チーム合計８チームで決勝トーナメントを行う。

グループＡ	グループＢ
中国	イラン
中央アジアサブゾーン代表	チャイニーズ・タイペイ
東南アジアサブゾーン代表	南アジアサブゾーン代表
レバノン	カタール
マカオ	日本

この大会の優勝チームには２０１３年に開催されるアジア選手権大会兼世界選手権大会アジア予選の出場権が与えられる。さらに優勝チームと開催国を除く上位４チームに改めて開催される東アジアサブゾーン選手権大会への出場権が与えられる。

中学生クリニックを開催

［普及部］

昨年に引き続き今年度も中学生を対象としたクリニックを去る５月１３日（日）に開催した。クリニックは世田谷区中体連バスケットボール部が主催し、振興会が協力する形で行なわれたが、会場となった世田谷区芦花公園中学校体育館には、世田谷区内の８中学校から男女合わせて８１名の参加があった。参加した中学生はその殆どが今年入学したばかりのバスケット未経験の部員で、引率の先生３名とともに振興会蒲田副理事長が世話役となって昨年以上に充実したクリニックとなった。

振興会からは講師として従野理事と結城理事が協力し、ＪＢＬ２のビッグブルー東京から加藤選手、藤田選手、佐藤選手、茂木選手にお手伝いいただいた。

クリニックは午前中女子を対象に、午後男子を対象にそれぞれ３時間にわたり理論から実践まで熱のこもった内容となった。

最大の目的は、小学校時代にバスケットボールの経験のない中学１年生に、部活でバスケットボールを続けることの楽しさを理解してもらい、夢を持ってもらうことであったが、２年後には生徒たちが立派に変身していることを期待したい。

従野講師の指導内容

＜＜理論編＞＞

最初にバスケットボールに取り組む際の心構えといった内容を、白板を使って分かりやすく説明、以下その概要。

・やってできないことはない。目標を定めてそれを意識すること。
・人の話をよく聞き、どうしてなのか疑問を持つこと。また、疑問がある時には指導者の言うことを聞くこと。
（従野講師の恩師である、故吉井四郎先生は、常に「何を」「どのようにして」練習すれば良いのかという理論を教えてくれた。理論が分かっているだけに毎日の練習が新鮮であった）
・練習は不可能を可能にする。うそをつかない。継続は力なり。
・実行するのは選手、いま自分に何が必要か、常に考えること。
・自分が信じたことしか力にならない。
・富士山の頂上に到達するにはいくつかの道があるが、バスケットボールも同じ。先輩がつけたいくつかの道の中から、自分で判断して選ぶと良い。しかし最終的には顧問の先生のおっしゃることをよく聞き、実践すること。それがチームのためであり、自分の力にもなる。
・バスケットボールは習慣のゲーム、身につけるには意識してプレーする習慣をつけること。体得できればしめたもの。

＜＜実践編具体論＞＞

＜ミスとリバウンド＞

試合では両チームともボールを持つ機会は同じ。仮に試合中８０回ボールを保持することができ、全て２Ｐシュートに結びつけてその成功率を５０％とすると得点は８０点。

仮に６０回しかシュートに結びつけることができないということは、シュートに持ち込むまでにパスミス、ドリブルミス、トラベリングなどのミスがあったということ。これらを極力なくすようにすることが必要である。裏返して言えば、相手にこのようなミスをさせるようにすることが必要。

では上記のボール保持回数６０回を８０回に増やすことはできないだろうか、それはできる。ボールの保持回数を増やす一つはオフェンスリバウンドであり、それによって相手チームよりボールの保持回数を増やすことができるので、これが大切になる。

よって、たとえ得点を取らなくても相手のミスを誘ったり、リバウンドを取ったりすることはチームへの貢献につながり、バスケットがうまくなるきっかけになる。

＜ランニング＞

バスケットボールでは重心の移動がポイント、そのためには脚力が一番大切なのでこれを鍛えること。その出発点は早く走ること。そのためには走るピッチを上げる、しっかりと手を振る。歩幅を広げる練習が大切。

＜シュート＞

シュートは、原則身体の重心が飛んでいく方向へ向くこと、かつ重心の上にボールを乗せる感覚で打つこと。ボールに触れている時間を長くし、フォロースルーをしっかりと行なうこと。肘をまっすぐに伸ばし、肩を支点にボールを上へ投げ出すが、手首には力を入れない。

＜＜実技編＞＞

ランニング、ストレッチの後基礎的な実技練習を行なった。

結城講師の指導内容

＜＜理論編＞＞

「バスケットボールとはどんなスポーツか」「どうすればうまくなれるのか」の観点から、大切な基本技術につき生徒を前に熱く説明していただいた。概要は以下の通り。

＜基本姿勢＞

バスケットボールは、狭いコート上でディフェンスとオフェンスが互いに対応し、得点を競い合うスポーツである。したがって今おかれている状況の中、自分は何をすべき

かを判断し、瞬時に行動に移すことが成功につながる重要なポイントとなる。０.１秒でめまぐるしく状況が変わってしまうスポーツであり、その時状況判断が正しかったとしても、０.１秒行動が遅れればミスプレーになってしまうこともある。「目で見て」「自分は何をすべきか判断し」「瞬時に行動に移す」この一連の動作を行なうことが成功につながり、それを実践できるのが優れたプレーヤーである。

そのためには

①全体を見て状況を常に把握することが重要

目線はリングの高さをキープする。特別な状況以外は下を見ることはない。リングの高さをキープすることで敵、味方全体の状況が把握でき自分は何をすべきか正しい判断ができる。

②瞬時に行動するために

バスケットボールでは大きく分けて８方向（前後、左右、上下、左右展開）に瞬時に対応（反応）しなければならない。敵、あるいは味方の動き、状況に応じいつどんな時でも瞬時に８方向の対応が要求される。

したがって、常にその準備をしていなくてはならない。この準備の姿勢を「バスケットボールスタンス」という。具体的なイメージとしては

A　まず、目線はリングの高さ

B　スタンスは肩幅より足幅ひとつほど外に広く（ディフェンスでは更に広く）

C　つま先と膝は進行方向、肩のラインと同方向をキープする

D　その状態で膝を曲げ、踵が浮き親指の付け根（母子きゅう）に重心を乗せる

この姿勢を常にキープし、習慣化することで８方向に瞬時に対応することができる。

＜シュート＞

ボールコントロールは指先で行なう。強弱や方向を指先でコントロールする（ドリブルやパスも同じ)、手首は極力使わない。シュートはドリブルの延長にある、といってもイメージしにくいが、ドリブルを床から壁にそってリングにドリブルするイメージで。

パスを受けたところから直線的にシュートポジションに移行することが大切。ボールを指先でコントロールして３本の指で押してやるイメージ。手首でコントロールすると方向性は良くなるが、距離感がおかしくなる。

正しいフォームで数多く練習し、シュートフォームを確立することがシュート確率を高める重要なポイント（その際、無理な遠投はしないこと、フォームをくずしてしまうので)。

＜ドリブル＞

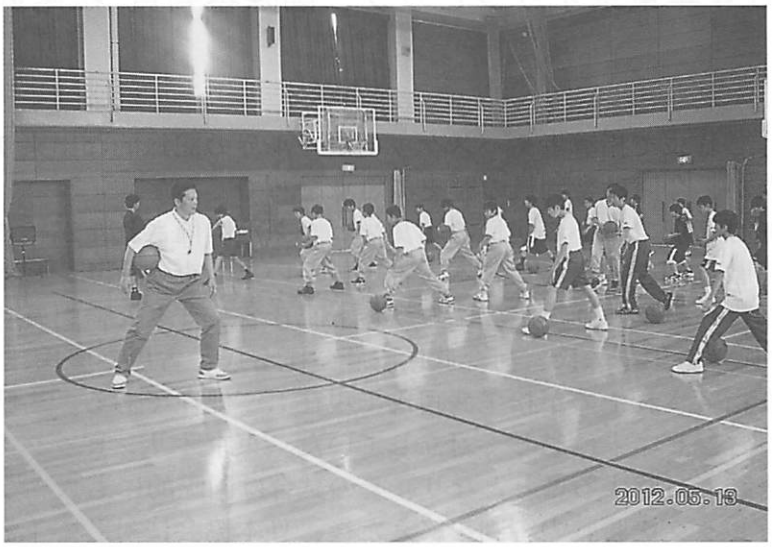
ドリブルは基礎をしっかりと身に着けておくと半永久的にその能力は伸びる。自分の技量に合ったスピードで正確に。特にシュートにつなげるにはボールをこねたり、肘を外に出さないことが必要。

また、ドリブルするときはボールを見ないようにすること。でないとボールを見ることが習慣化してしまうので。スタンスが狭いとドリブルが高くなり不安定になる。ドリブルは膝より下でつく感じ。

以上の練習は誰もが自分でできる。中学校の勉強は１年生、２年生、３年生と教科書を使って積み上げていく一貫方式。バスケットボールの練習も同じであるので、両立を目指してがんばって欲しい。

＜＜実技編＞＞

ボールハンドリング、ドリブル、パス、シュートの基礎的な練習を実技形式で行なう。

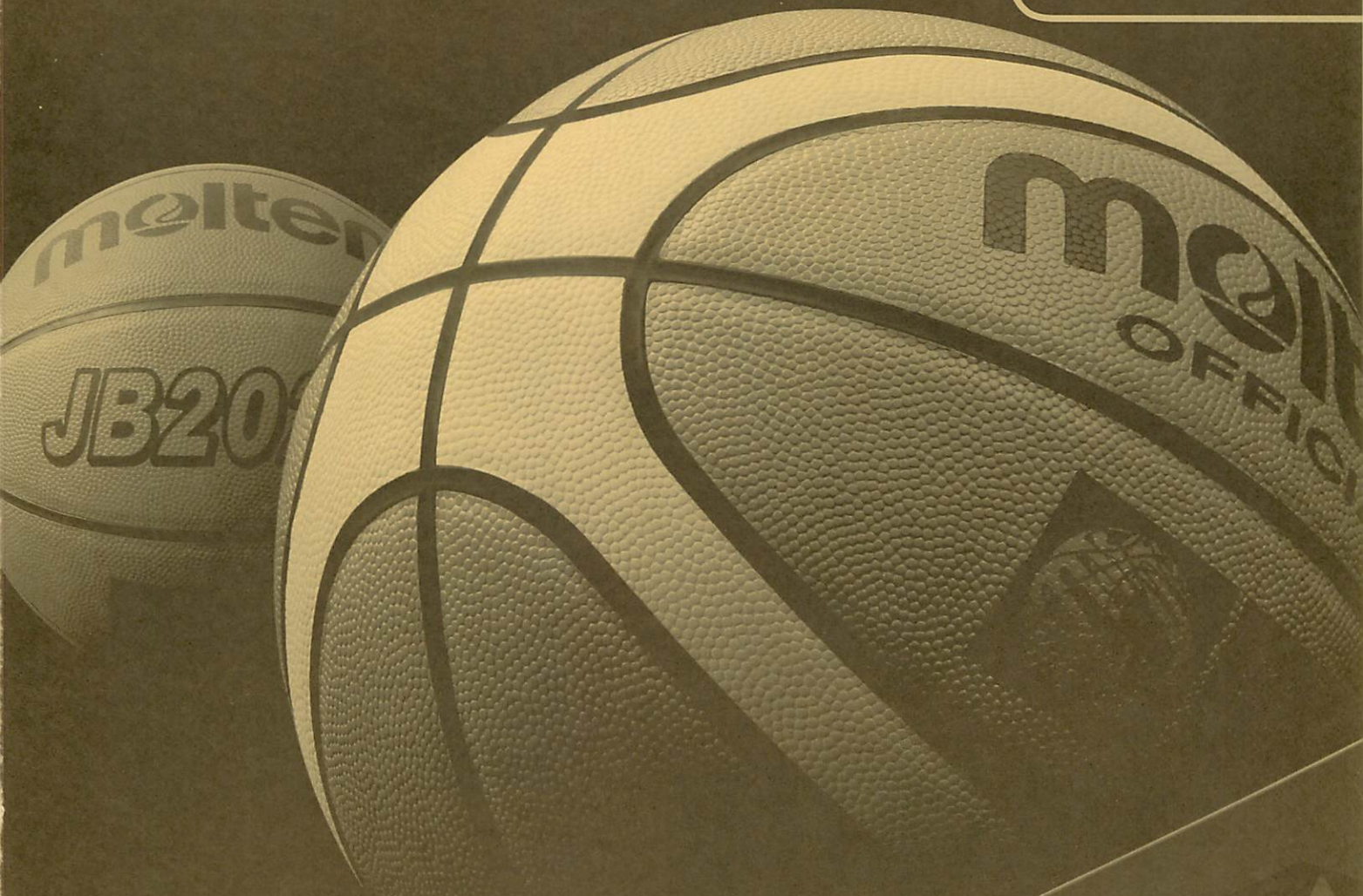


結びに

世田谷区中体連バスバスケットボール部の先生方のご協力で、振興会として今年も初心者向けクリニックに協力させていただいた。関係された先生方にお礼を申し上げますとともに、参加した生徒たちが熱心にバスケットボールに取り組み、２年後には変身していることを期待したい。

講師の従野理事はかつて女子全日本を率いた名コーチ、結城理事はシューターとしてオリンピックにも出場した名選手。それらの方々が指導するクリニックは理論、実践ともに中身の濃い内容であり、振興会としては機会があれば他の地域でも開催することが可能であり、中学生の技術向上にこれからも微力を傾注したい。

molten®
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のないボールと
スポーツエキップメント・メーカーとして
つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球

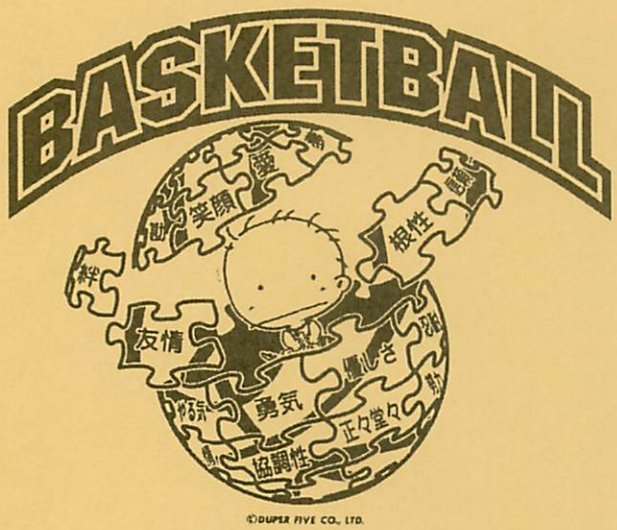
www.molten.co.jp
株式会社 モルテン 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

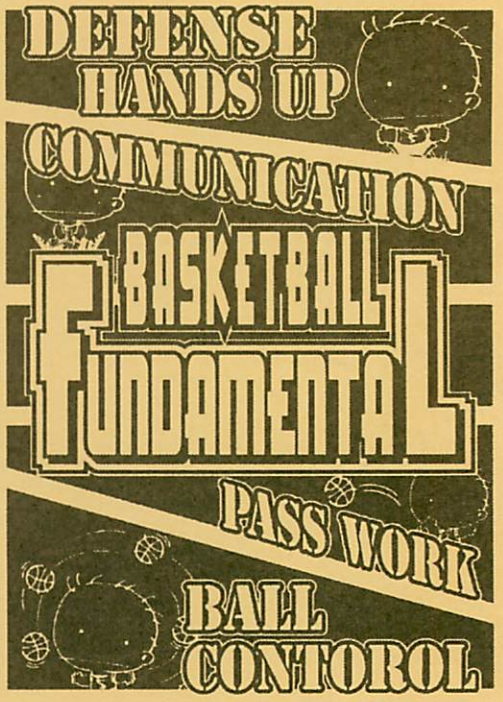
DUPER

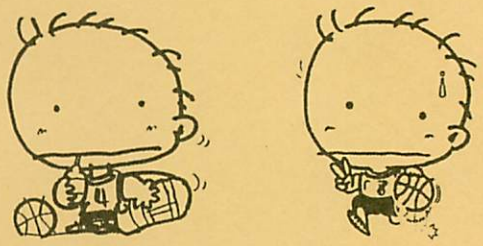
DUPER®

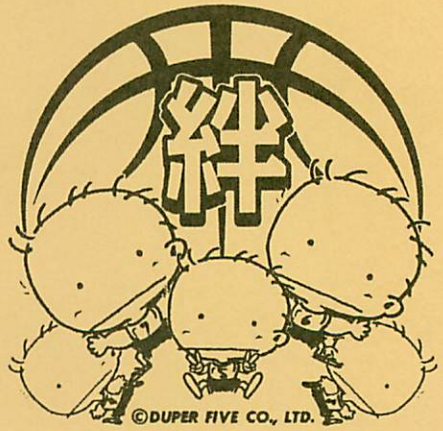
DUPER 5®

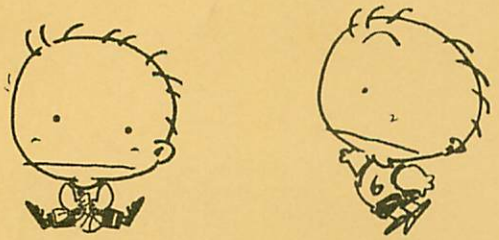
表現の自由人。











DUPER®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL．(03)3632-7045（代表）
FAX．(03)3632-8327
URL ：http://www.duper.co.jp
E−mail: info@duper.co.jp